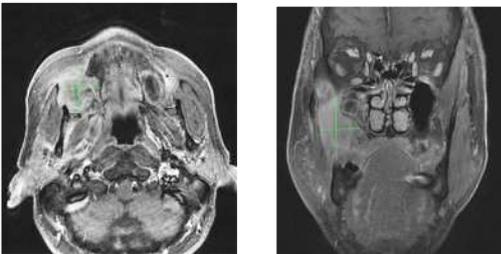
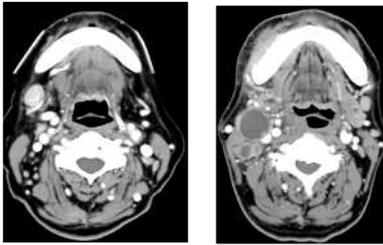


令和3年度 臨床研究テーマ成果報告書

| | |
|--|--|
| 診療科（部）名：放射線科 | |
| 第3期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） | |
| <input type="checkbox"/> 1. 口腔領域における新規組織再生・再建法の開発 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発 <input type="checkbox"/> 3. 顎口腔機能の維持増進に関する研究 <input type="checkbox"/> 4. 歯科医学臨床教育の質保証に関する研究 <input type="checkbox"/> 5. その他 | |
| 研究期間：～2021年12月28日 | |
| 研究課題名： 上顎歯肉癌のリンパ節転移に関する画像診断 | |
| <p>研究課題の概要及び成果：</p> <p>歯肉癌は高齢者によく発生するが、上顎と下顎に発生するものでは、その予後が大きく異なる。その理由は、上顎歯肉癌がリンパ節転移しやすいということに起因する。しかしながら、上顎歯肉癌からのリンパ節転移を予測する方法はこれまで皆無であった。</p> <p>本研究では歯肉癌原発巣の大きさ、特に、頬舌径に着目し、この頬舌径こそがリンパ節転移を来す大きな要因であることを明らかにした。</p> <p>この研究の成果が認められ、2021年度 Oral Radiology に「Prognostic factors for lymph node metastasis from upper gingival carcinomas」として掲載された。</p> <p>本研究の成果により、上顎歯肉癌患者を迎えた場合、原発歯肉癌病巣のサイズをMRIなどで評価し、もしも頬舌径が30mmを超える場合、リンパ節転移の可能性が高くなることを認識し、造影CT検査や超音波検査などで頰回にリンパ節転移に関する画像診断を行い、リンパ節転移を早期に発見することによって早期の治療を行い、予後の改善に貢献できると考えている。</p> | |
| 上記概要・成果に関連する図表等 | |
| 原発巣のMRIによる画像診断 | リンパ節転移のCTによる画像診断 |
|  |  |
| 当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 関連がある <input type="checkbox"/> 関連はない | |